

特集

穏やかな海の向こう側 愛媛に帰農するという選択



「愛媛県」と聞いて、

多くの人が、まず思い浮かべるのは、

「みかん」だろう。

みかんが代名詞になるぐらい、

温暖で暮らしやすい気候の地・愛媛。

しかし、それだけではない。

穏やかな瀬戸内・宇和海、

耕して天に至る段々畑、

清らかな流れに潤う里、

爽やかな空気に満たされた青い山々――。

美しく、優しい自然・文化・風土を有している。

思い描く農業やライフスタイルは、

皆さまざま。

あなたの思い描いているものを

愛媛で探してみよう。



みかんと俳句の里 愛媛の地で就農を考えてみませんか

(財)えひめ農林漁業担い手育成公社理事長 高浜 壮一郎

えひめの就農支援相談窓口と県段階の支援措置

レモンの島に思いを重ねて 古川 泰弘さん・由希子さん

トマトに魅せられて 倉本 正勝さん

「農的暮らし」を楽しむ 山岡 亨さん

みかんと俳句の里 愛媛の地で 就農を考えてみませんか

財団法人 えひめ農林漁業担い手育成公社 理事長 高浜 壮一郎

愛媛の由来

「愛媛」とは、美しい媛、すなわち美しい女性の意味で、古く8世紀に編まれた歴史書、「古事記」にもその記述が見られます。愛媛県はその名のとおり、穏やかな気候風土の地として知られています。

愛媛の位置と気象？

日本列島を構成する四つの島の一つである四国は愛媛、香川、高知、徳島の4県からなっていますが、最も大きいのは人口150万人、面積5674km²を有する愛媛県です。四国の西北部に位置する愛媛県は、東南に横長く、東は香川・徳島の両県、南は高知県と接しています。

北は瀬戸内海、西は宇和海に面し、1633kmにも及ぶ海岸線を持ち、南には西日本最高峰の石鎚山（1982m）を有する四国山地があり、平地は少なく傾斜地が多くあります。また、瀬戸内海、宇和海には大小2000余の

島々が散在し、海、山の自然の景観に恵まれています。気候は温暖で（年平均16℃、16・5℃）、降水量は少ない（年降水量1300～1600ミリ）瀬戸内海気候となっています。

愛媛の農業

愛媛の農業は、瀬戸内海気候のもとに、果樹、畜産、コメを基幹として多種多様な農産物の生産が行われています。特に沿岸地域や島しょ部で栽培されている柑橘類の栽培規模は全国一を誇るなど、西日本における有力な食料基地の役割を果たしています。

このように平坦部が少なく、そのほとんどが急傾斜地域である県南部（南予）地域を中心とした沿岸地域と県中央（中予）・県東部（東予）地域の島しょ部では、適地適作を基本とした果樹生産が、集団的な農用地が少ない山村地域では、コメ、野菜、果樹、畜産等多様な農産物の生産が、また、平坦地域においては、水田農業に加えて施設野菜・花き生産を農業生産の柱としています。

農業を始めるために

近年、新たに農業をやりたい、I・J・Uターン就農したい、定年後は生まれ育った「ふるさと」で暮らしたいなど、農業・農村を目指す人々が増えています。

そんなさまざまな希望に応えるための総合窓口として、愛媛県では「財団法人 えひめ農林漁業担い手育成公社」が設置されています。

公社では、新たに就農しようとしている人からの相談、情報の提供、農体験や研修先の紹介や支援事業の実施、さらには、農業研修資金の貸付などの業務を行っています。ぜひ、公社の門を叩いてみてください。

農業研修先について

県内市町では、実習農場を備えた研修農場を設置しているところもあります。また県では、県立農業大学校において新規就農希望者を対象に、農業の基礎研修・実践研修を実施しています。県の試験研究機関（農業・果樹・畜

産・養鶏等各試験場）においても作物の栽培技術・家畜の飼養技術研修も実施しておりますので、積極的に活用していただきたいと思います。

就農希望者への支援

このほか、愛媛県では就農希望者への支援策として、愛媛県での就農を希望される方の総合相談を、先に紹介しました（財）えひめ農林漁業担い手育成公社で実施し、地域や生活に関する情報提供や農業法人での研修を希望する方へは、県下5カ所の地方局農政普及課及び地域農業指導班で情報を提供しています。

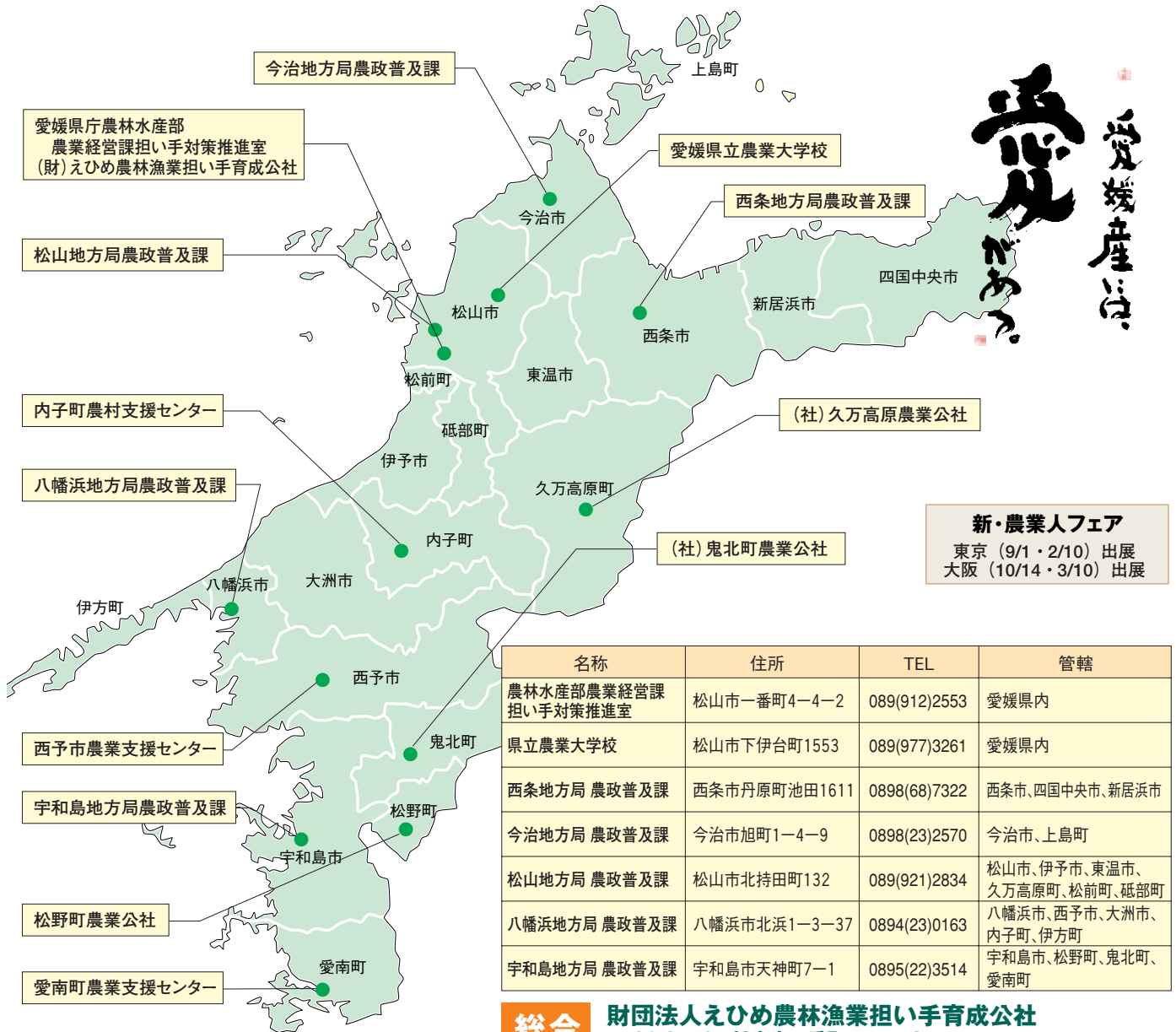
また、平成18年度からは、新たに団塊の世代の方々を対象に、定年退職後、愛媛県への帰農・移住を促進する「えひめ団塊の世代等就農促進事業」を、市町や県内企業などと連携して取り組んでいます。

「気候温暖な瀬戸内愛媛で農業を始めたい」「生まれ育った愛媛で暮らしたい」など人それぞれだと考えます。

就農・帰農希望の皆さんには、愛媛の地でそれぞれの「夢」をかなえていただきたいと思います。



えひめの就農支援相談窓口



新・農業人フェア
東京 (9/1・2/10) 出展
大阪 (10/14・3/10) 出展

名称	住所	TEL	管轄
農林水産部農業経営課担い手対策推進室	松山市一番町4-4-2	089(912)2553	愛媛県内
県立農業大学校	松山市下伊台町1553	089(977)3261	愛媛県内
西条地方局 農政普及課	西条市丹原町池田1611	0898(68)7322	西条市、四国中央市、新居浜市
今治地方局 農政普及課	今治市旭町1-4-9	0898(23)2570	今治市、上島町
松山地方局 農政普及課	松山市北持田町132	089(921)2834	松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町
八幡浜地方局 農政普及課	八幡浜市北浜1-3-37	0894(23)0163	八幡浜市、西予市、大洲市、内子町、伊方町
宇和島地方局 農政普及課	宇和島市天神町7-1	0895(22)3514	宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町

総合窓口 財団法人えひめ農林漁業担い手育成公社
〒790-8570 松山市一番町4-4-2
TEL 089 (945) 1542 FAX 089 (932) 7825
URL <http://www1.odn.ne.jp/cek31650/>

県段階の支援措置

農業の仕組みや制度を勉強

- **えひめ農業入門塾 (基礎コース)**
(愛媛県立農業大学校)
農業に関心のある他産業従事者等を対象に、土、日曜日を利用した就農準備のための基礎研修を実施します。
- **えひめ農業入門塾 (実践コース)**
(愛媛県立農業大学校)
就農を考えている人を対象に、講義及び実践的な実習を通じ、農業を行うために必要な知識や栽培技術を取得できるコースを設けています。

先進農家で農業体験

- **営農体験ファームステイ事業**
(財団法人えひめ農林漁業担い手育成公社)
都市青年や学生 (40歳未満) 等を対象に、県内先進農家等で10日間の体験研修を実施します。

本格的な農業研修

- **営農インターン推進事業**
(財団法人えひめ農林漁業担い手育成公社)
愛媛県内で、就農予定又は確実な方 (40歳未満) を対象に実務研修を実施します。

・新規参入者対象の長期コース (1年以上2年以内、7.5万円/月 助成)

レモンの島に思いを重ねて

愛媛県上島町 古川泰弘さん

由希子さん



レモンを手にする古川泰弘さん、由希子さん

けん気に火がついた。「何が何でもやってやる」。

果樹試験場で研修

泰弘さんは03年7月、岩城島に移住した。04年1月まで、(助)えひめ農林漁業担い手育成公社のアグリサポーターとして農家を手伝いながら農業研修を受けた。04年度1年間は、県公社事業の営農インターン推進事業で県果樹試験場岩城分場の研修(月額7万5000円の助成)。仕事の都合から半年遅れで移住した由希子さんも04年度1年間、同事業で農家研修に入った。

二人とも京都市出身。共働きで20代のころは「ポタン一つでお湯が沸き、

お金があれば何で

も買える」都会生活を楽しんでいた。

「農業は何も知らなかったし、



就農1年目を支えたトマトのハウスで

興味もなかった」。

共通の趣味は、スキューバ・ダイビング。海と自然に親しみ、島の生活に触れるうちに、レールの上に乗った都会生活が「つまらない人生」に思えてきた。二人で沖繩などの島を巡り、移住先を探した。たどり着いたのが、レモンを取り寄せていた岩城島だ。

レモン中心のカンキツ栽培

泰弘さん、由希子さんは、05年4月から本格的に農業を始めた。就農時に柑橘園7㏎を借り受けた。現在、パイプハウス栽培のレモンが20㏎、ハウスせとか5㏎、ハウス・トマト350㎡(700本、収穫2ト目標)、温州みかん20㏎、露地のレモン、せとか、不知火、ハッサク、露地野菜など。

「農業は生命のみなもと、つまり生命そのものをつくる産業」という自負がある。そして、「農業だけでなく、離島と海、自然を上手に楽しみたい」。

ビジネスチャンスがある

レモンのハウス栽培技術は、果樹試験場岩城分場が開発した。通年で出荷販売できる。古川さんは、レモンなどの柑橘類と野菜類を、自ら販路開拓して京都市のスーパーや千葉県のスーパーなどに直接販売している。

農業経営は、生産・販売・経理がしつかりすれば成り立つという。昼間は二人で生産・栽培管理作業、夜は泰弘

さんが販売・営業活動、由希子さんが経理。泰弘さんは、昼間の作業を終えると、車で京阪神にまで営業活動に出る。愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ本四架橋の自動車道「しまなみ海道」があるが、岩城島には通っていない。フェリーで渡り、京阪神に出掛ける。

法人経営を検討中

05年度の販売額は300万円、06年度の目標は500万円。販路を開拓して、売上高を伸ばし続けたいという。

農業を始めて間もないが、「進むべき道は決まった」。法人経営にして人を雇いたい。島の農家は、経営主が造船所などへ働きに出て、農業は主婦の仕事。労働力は間に合っていないし、高齢化などから耕作放棄地が増えている。島の農家の作業を受託して、販売活動も活発にし、レモンの島を活性化したい。島と海の美しさを守りたい。そうした思いからだ。

新規就農の成否は、「やる気」と「家族の協力」と「地域の人たちとの信頼関係」にあると古川さんはいう。

<愛媛県東予地方・自治体の支援>

- 上島町農林漁業インターン事業
- ①上島町に転入し10年以上居住する意思のある農林漁業を営もうとするおおむね50歳以下の人
- ②経営ノウハウや技術を習得するための研修期間の2年以内について、月額10万円の研修費を支給

【問い合わせ先】

上島町 岩城総合支所 産業建設課
〒794-2492 越智郡上島町岩城1427
☎ 0897 (75) 2500

トマトに魅せられて

営業マンから転身

愛媛県久万高原町 倉本正勝さん



倉本正勝さん（56歳）が愛媛県久万高原町に新規参入して6年目になった。最初の1年間（2001年度）は、久万高原農業公園アグリピア内の研修センターの温室で、トマト養液栽培を研修。2年目からビニール温室5棟（15㍎）で大玉トマト3000本を養液土耕栽培し、農協共販（ブランド名「久万高原トマト」）で主に京阪神市場に出荷している。

トマトに魅せられた

倉本さんのトマト生産実績は、生



トマトの魅力を語る倉本正勝さん

産4年目の05年度が約10トン。今や、立派なトマト生産農家である。

1本のトマトに13段目まで実をならせ、7月初めから10月いっぱいまで4カ月間出荷する。

3000本のトマトは、1本ごとに生育が少しずつ違う。「これは、少し細いでしょう。水を欲しがっている」「これは、太い。栄養状態もちよいどいい」

倉本さんはいう。「——トマトは、栽培管理にちよつと手を抜くと、いろいろな形で表れてくるデリケートな作物。ストレスがあると、体（茎葉）にぶつぶつが出てくる。実が付くと、体（茎）が細って、「餌（養分）をくれ」と叫ぶ。寒くなると、生長点付近が紫色になる。栄養が多過ぎると、太く上に伸びて、暴れる。」

倉本さんの語りには、トマトへの愛情がある。トマトに魅せられた人が、ここにいます。

営業マンから転身

倉本さんは、計測機器製造メーカーの営業マンだった。茨城県つくば市の



トマトはデリケート。作業に手は抜かない

研究センターで産官学協同の仕事に携わっていたころ、居住地の龍ヶ崎市で市民農園（3㍎ほど）を借りた。龍ヶ崎市もトマトの産地。近所の農家が作るトマトに興味を覚えて、市民農園でトマトを作った。

もつと本格的にトマト栽培をしたい。茨城大学農学部の新規就農コースにも通った。市民農園も5年目、農業（トマト）への思いが募ったころ、会社が早期退職を募り始めた。

全国新規就農相談センターから愛媛県久万町（現・久万高原町）を紹介し

でもらった。久万高原農業公園（久万高原農業公社）研修センターが1ターンの研修生に月15万円の研修手当を出す制度も魅力だった。

しかし、当時の規定では「40歳未満」で農業研修2年間。倉本さんはこのとき、50歳になりかけていた。「無理をいって、私のために規定を変えてもらった。研修期間も1年間にしてもらった」（倉本さん）。

収穫・販売の喜び

「今から思えば、定年後に就農したほうが、生活に余裕ができたはず」と倉本さんはいう。しかし、「そのとき決断し、農業を始めたことはよかった」。「一生懸命努力したものが実を結び、収穫できて、販売し、お金になったときは、これほどうれしいことはない」。

就農に大反対だった奥さんも、今はトマト栽培を手伝っている。「芽かきや摘果、収穫など細かい仕事は、女性のほうが適している」（倉本さん）。

<愛媛県中予地方・自治体の支援>

●久万高原農業公園研修センター研修制度

- ①久万高原町内で新規就農したい者に対して「久万高原農業公園研修センター」での農業研修機会を提供し、農業の担い手を育成する対象
- ・おおむね50歳以下の者
 - ・終了後に、久万高原で就農すること
 - ・研修期間はおおむね2年
 - ・研修品目については施設園芸による、トマト、イチゴ、花き、ホウレンソウの栽培を志す者
 - ・ある程度就農準備金を有する者

②研修補助金※

- ・町内出身者 12万円
- ・1ターナー者 15万円

③農業機械・施設整備補助金※

- ・就農時の機械購入、施設整備のリースを受ける際、300万円もしくは事業費の60%のいずれか低い額を補助金として交付

④新規就農初年度の生活費貸与（無利子）

- ・月額本人15万円（以内）、配偶者5万円（以内）、第一子3万円（以内）、第二子2万円（以内）

⑤住居対策

- ・1ターナー者独身者であれば、後継者独身を斡旋

※注：ただし、就農開始後5年未満に営農活動を中止した場合は、返還の必要あり

【問い合わせ先】

(社) 久万高原農業公社
〒791-1212 上浮穴郡久万高原町下畑野川甲
500
☎ 0892 (41) 0040

「農的暮らし」を楽しむ

愛媛県内子町 山岡亨さん

山岡亨さん（41歳）は、内子町石畳地区に新規参入して、無農薬・無化学肥料・不耕起・草生栽培の自然農法、自然養鶏、炭焼きを実践している。飯米用の水田が13アール、野菜約30種を栽培する畑が50アール、自然養鶏の採卵鶏300羽。他に茶道炭の生産・販売をする。

「農的暮らし」を求めて

山岡さん家族（夫婦、子供2人）が内子町への移住を決心したのは、田舎暮らし、農的暮らしを求めてのことだった。長女が小児ぜんそくで、都会は子供を育てる環境ではないと夫婦で話し合い、新規就農フェアや林業フェアにも通った。山岡さんが松山市出身のこともあって、愛媛県の相談ブースを訪ねた。

山岡さんは東京で大学を卒業、そのまま就職し、建設会社勤務の後、歌舞伎座舞台（株）で道具の仕事をしていた。神奈川県鎌倉市に住み、長距離の「通勤地獄」も味わった。

移住先の内子町は、道の駅「からり」や旧市街地の保存などで有名な地域おこしの町。なかでも石畳地区は、お母

さんたちの民宿経営などで活気のある山間地域。そのなかで、山岡さん家族は、2005年4月から本格的に「農的暮らし」を始めた。

自然農法の農家で研修

山岡さんは、（助）えひめ農林漁業担い手育成公社の営農インターン推進事業で、04年度の1年間、内子町の自然農法を行う農家で研修した。同事業は、農家や農業法人で農業実践研修を行う



山岡さんの経営の中心となるのが平飼いの自然養鶏

県公社事業だが、研修手当月額7万5000円が支給される。

研修先の農家は、研修期間中から山岡さん家族に住居を無償で貸してくれ、就農時に畑50アールも貸してくれた。茶道炭（クヌギを原木にした高級品の黒炭）の炭焼きの師匠でもある。

卵・野菜などを直販

山岡さんの経営は、自然養鶏の卵販売が主体である。道の駅で販売したり、町役場に声を掛けたりして、固定客が付くようになった。野菜30種ほどを段ボール箱詰めしてセット販売。不耕起栽培の自然農法のため、年間を通じた品物の確保が難しく、端境期には卵やコマ、炭なども入れている。保健所の認可も取り、卵を使ってパンを焼き、道の駅で販売している。

炭は、研修先農家（お師匠さんであり、大家さんでもある）の口利きで、愛媛茶道炭販売組合に参加、組合を通じて販売している。1ケース（5キロ）

9000円だ。

炭の原木クヌギは一山単位で買うため、炭焼きに使えない太いクヌギを原木にしたシイタケ栽培も計画 중이다。

農と暮らしを楽しむ

民宿などで構成するグリーンツーリズムに取り組み「石畳地区を考える会」にも参加して、農業体験・炭焼き体験なども計画 중이다。都会の人も楽しめ、地元の人も楽しんで、ある程度の収入がある。そうした地域おこしへの参加である。

就農先の市町村や地元地域に新規参入者を迎え入れてくれる体制があるかどうかで、就農・移住の成否が決まる。「いい地域に入れた」という。

体が慣れない最初の1年間はしんどいが、慣れてくると農業・田舎暮らしは楽しい。「農的暮らし」を始めて、本当によかった、と山岡さんはいう。



棚田の13アールの水田。水田を耕すことなく田植えする

<愛媛県南予地方・自治体の支援>

●鬼北町新規就農促進事業

- ①（社）鬼北町農業公社研修生募集条件
 - ・40歳未満
 - ・研修終了後5年以上鬼北町で農業に従事
 - ②農業研修補助金
 - ・町内在住者12万円
 - ・町内以外15万円
 - ③農業機械・施設整備補助金支給
 - ・事業の60%以内、もしくは、300万円のいずれか低い額
- 【問い合わせ先】
鬼北町 産業課
〒798-1395 北宇和郡鬼北町近永800-1
☎ 0895 (45) 1111
（社）鬼北町農業公社
〒798-1323 北宇和郡鬼北町岩谷352-1
☎ 0895 (30) 6521

●松野町新規就農促進条例

- ①研修生の募集条件
 - ・おおむね18歳以上～45歳未満
 - ②研修内容
 - ・水耕栽培研修
 - ・花苗生産研修
 - ③支援措置
 - ・研修期間2年
 - ・研修補助金月額12万円
 - ・農地等の斡旋
- 【問い合わせ先】
松野町 産業振興課
〒798-2192 北宇和郡松野町松丸343
☎ 0895 (42) 1111
（株）松野町農林公社
〒798-2111 北宇和郡松野町吉野222
☎ 0895 (42) 2103